

ばってん

事務長会報第14号

平成15年10月1日

長崎県公立学校事務長会

長崎北高等学校内
〒851-1132 長崎市小江原町132
電話 095-844-4411



ホテルモントレ長崎
TEL 095-822-2251
長崎市筑後町4番10号

組織と会議について

～侃々諤々と前へ～

会長 福田

実 (長崎北高等学校)



情報機器と通信手段の急速な発達により、定例的かつ定型的な情報交換なり連絡のために、会議を開催することの価値は全く皆無とは言わないが著しく減少してきていると思われる。

メールでの資料のやり取りや、連絡が全庁的に出来るようになることは、最近まで願望の域であった。

まさに、革命的と形容してよいものである。これを、有効に活用することが今後ますます重要になってくると思われるが、人と人がお互いの顔を見ながら意見を交換するという会議は、集団や組織の秩序維持に必要なことは技術の進歩に関わりなく今後も必要であろう。

ここで、「会議」という言葉の定義をしておく必要があるだろう。大辞林によると次のようになっている。「関係者が集まり、討論・相談や決議をすること。また、その会合。」実に簡潔で含蓄に富んだ定義である。この定義のどの語句に重点を置くかで会議の在り方の様相が異なることになるだろう。

話は古くなるが、聖徳太子の十七条の憲法にあるように、我が民族は「和をもって貴しとなす」で、集団の和を保つことに重きを置いてきた。このような原則での会議は、相談に重点を置いたものになることは、やむを得ないこととなる。会議では、出席者の苦情や要望なりを聞きはするが、大方はその場で、それらについて解決策を討議したりはしない。後日検討のうえ回答するという形をとるのは、良心的な方で、一般的には聞き流すという方法が、集団の暗黙の決まりである。それでは、集団内の問題解決や対外交渉の方法等の、最終的な方針等はどのように決定するのかということになる。現代の感覚でいえば、集団の長たる者が決めるのだろうとなるが、我が古来の伝統はそうではない。決定に際して長たる者が重要な役割を果たすこともあるだろうが、この国では決定者を明確にしないことが集団の和を保つうえで重要なことだとされてきた。歴史上では、決定者が明確な時も幾つか散見されるが、独裁として嫌われ何れも短期間しか存在しなかった。蛇足ながら付け加えるとこのような方法を取る会議の本質は、問題の先送りである。余程の切迫した状況にならない限り解決策を提示しないということになる。

このような方法は一見したところ、民主主義のような感じがする。実際にこの国の人々はそのように勘違いをしている者が多数である。明治の初めに、自由民権運動が盛んな頃、活動家が地方の村々を回っていた時に、新しい議会と昔からの村の寄合との違いを質問されて、困惑したという話を何かの本で読んだことがある。

これは、集団を保つことを第一義とする組織では、会議とは「討論し、決議する」という、機能的組織としては、当然に備えていなければならない原則を回避しているからということを理解していないからにはかならない。

組織には、集団を保つことを第一義とする共同体的組織と、一定の目的を実現するための機能的組織があり、人々は時代や社会の状況に合わせて試行錯誤を繰り返しながら、この二つの組織を組み合わせ、歴史を作ってきたと思う。

要点は、今現在自分が属している組織は、共同体的組織なのか機能的組織なのかを明確に認識することである。本会は、会則第2条にあるとおり、「本県学校教育の一層の充実発展を図る」という確固たる目的を持った、機能的組織であると断言できると思うが如何であろうか。

機能的組織における会議の原則は、既に述べたように、「討論し、決議する」ということである。

希望や苦情を述べるのが無益とは思わないが、目的達成の為にどのようにすべきかという討論の為に会議をしているという原則を忘れないようにすべきであろうと思う。

実行に至る細部についてまで、議論を尽くすことが重要であり、方針や概要だけを了承するような会議は、集まる意味が希薄だと思われる。

予定の会議を消化するために、貴重なカネと勤務時間を割くことは、県民の理解を得られないことを肝に銘じて、多少時間は長引くことになろうが、数少ない会議を充実したものにする必要がある。そのためには、会議資料の十分な事前検討及びこれまでの経過等の情報収集が重要だろう。人は変わっても組織は継続しているのだから堂々巡りの議論だけは避けたいものである。

気掛かりなこと

長崎南高等学校 松尾隆行



今春の総会で会長を退き、早や半年が経過しました。会員の皆様の在任中の温かいご支援、ご協力に改めて感謝申し上げます。退任後は、自校の仕事に追われながらも「荷を下ろした気楽さ」を感じております。

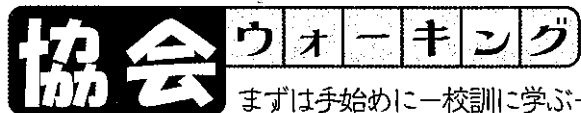
さて、さまざまな社会的、経済的背景等から少子化がどんどん進んでいます。県教委の調査によると、中学卒業生は今後9年間に4,700人減少するとのこと。これは、単純に計算すると、1学年8クラスの学校が約5校なくなることになります。そのことは、事務職員の減に繋がり、これも単純に計算すると25人程度の減となります。

先日、平成16年度の県立高校募集定員が発表されましたが、学級減や学科改編、更には募集停止が行われる学校が16校に及んでいます。17年度以降も県立高校教育改革第2次実施計画に基づき、同様な措置が行われていくものと思います。

ご承知のとおり、事務職員の定数は生徒数を基とされています。そのこと自体は、よりどころとして仕方がないことかなと思いますが、生徒数の減が事務量の減に比例するものでないことも事実であります。まして、学校事務は、近年、増加の一途であります。また、特色ある学校づくりで、予算面やハード面での事務室の役割りは大きいものがあります。さらに、学校経営の時代といわれる中、事務長の活躍が期待されています。そのようなことから、事務量に見合った定数算定基準の改正が必要であると思っております。全国事務長会では、以前、そのような資料を作成し、関係先へ要望したと聞きました。

私も今年度限りとなりましたが、長年、学校事務に携わってきた者として、この少子化の中、5年後、10年後の事務室の状況が気掛かりです。

●事務職員●



周年の節目節目に創立周年記念事業を実施していますが、その一環に記念誌の刊行があり来賓・教育関係・保護者等へ配付されています。これまでの学校史の年輪が刻まれている貴重な資料として活用されていると思います。

頂いた記念誌をめくるとまず目に止まるのが校訓揮毫です。校訓は校風の基本(教育上の理念・目標)とすることばであり、校歌、校章、校旗と共に学校のシンボルであると思います。

ここで本校の校訓について述べてみたいと思えます。清々しい早朝、校門を入ると玄関前のロータリー

意見 異見 違見

事務職員協会研究大会での発表を終えて ～いくつかの雑感～

諫早東高等学校 主任 長森壽夫

諫早地区では発表に向けて、前回昭和63年度に改訂されたままの「工事請負費の予算要求から事業完了報告まで」を10数年ぶりに見直しました。資料作成を進める中で、①発表後も一定期間、資料内容をサポートしていこう。②「工事請負費」を地区のテーマとして位置づけてはどうか。の2点について提案をしました。というのは、毎年各地区で発表される研究発表は、その後の条例や運用等の変更により長期間の利用ができない状態になっているのを痛感したからです。従来からの地区研修、研究は「大会で発表をする」ことに目標をおいたものになっており、継続した研究、研修ができる状況にあるのかどうか、地区として考えてみようと思ったからです。

さて、今年の総会で会費についての提案がありました。今後の事務職員協会の運営、地区の活動等をどう考えるのか良い機会だと思います。これからの事務職員の進むべき方向性を示し、そのためには事務職員制度、職務内容はどのようにあるべきかを考えることが大切ではないでしょうか。

事務職員が培ってきた知識と経験を蓄積し、受け継げる態勢を整えるきっかけになればと諫早地区にて提案しました。特に事務職員の役割や事務・業務の効率化等の問題は、例えば事務の効率化の下に給与・旅費等の事務集中管理や事務情報の共有化、集中業務による効率化、事務のシステム化等による事務の共同化の試みが全国的に広がりをみせているように、すぐにでも私たちは取り組む必要があるように思います。そして、これらのことを考えていく上で学校の役割が高度情報化や国際化、地域との連携の中で多様化し、質的な変化が求められている中、事務職員自身の意識改革と更なる自己研鑽は不可欠であると思います。より良い事務職員制度、研修組織を目指して事務職員が意見を出し合い検討できればと切に思います。

に「技術の真髓をつかめ」の校訓碑があります。校訓はユニークで重厚であり校風が漂っています。

長工高では、多様な進路、資格取得、ものづくりを三つのキーワードと定め学習に取り組んでいます。この校訓には、長工高のそれらの面が凝縮されているように感じられます。生徒達と接する機会が余りない私としては、毎朝会うこの校訓碑を千余名の生徒と思い“お早う今日も頑張ろう”といつも心の中で激励しています。

(長崎工業高校 小園 勝朗)

今号から事務長会のご好意により“ばってん”に寄稿することになり心から感謝しています。伝統ある会報紙を汚すことなく協会の運営同様精一杯努めますのでよろしくお願いします。

(県公立高等学校事務職員協会事務局)

会 員 漫 筆

釣バカ30年の哲学 (宇久島の夜釣)

西彼杵高等学校 三 根 博 紘

星々は眩しいほどにさんざめき、その存在を誇示していた。この星空の大パノラマを見ながら「ああ、さんざめく名も無き星達よ」と詩ったのは誰だったか。

東の夜空に一際輝く三つ星を中心にした美しい星座が見える。この星達を古代ギリシャの人々は「オリオン」という獵師の名で呼んだ。そしてその上方に六つの星の散開星団が見えるという。「プレアデス」日本名で「昴」と名付けられた美しい星々、残念ながら私の眼では見ることが出来ない。

星々はさんざめきながら、夜の海に同化して行く。それを区別できるのは、漁火と遥かに生月大橋の点滅、そして古志岐三礁の灯台の灯であった。

「人は何のために生き、何のために死ぬのか。」

途方も無い宇宙と暗い大海原を見つめながら、柄にも無く「生」とか「死」とかを考えてみる。

夜釣とは、そういう一時を味わうことの出来る、掛け替えの無い時間なのかもしれない。

何度竿を振るったであろうか、何度餌を取り替えたであろうか、赤い点灯を何時間見つめたであろうか、.....

突然！ 指で支えたラインが走った。赤い点灯は既に海中に消え、リールをロックすると同時に、物凄い漁信が来た。

「真鯛だ！」二週間待ち続けた当りである。強烈な引きが愛竿を襲い、腰を曲げて行った。魚との戦いが始まる。はたして、この巨大魚に勝つ事が出来るのか。数々のバラシが頭を過ぎる。釣人は祈った「今夜こそ勝ってみせる！」。攻防が何分続いただろう必死に回すリールの軋みが突然軽くなった。「勝った！」巨大な魚体は磯際に横たわっていた。

秋のオール九州釣選手権が始まって二週間、何度も諦めかけたが、毎日毎日宇久の磯を攻め続けた。そして、それは奇跡に近かった。大会最後の日、ラストチャンスだったのである。

「人生は諦めてはいけない、絶対に諦めてはいけない、努力をすれば絶対に結果が出るのだ。」釣人は巨大な魚を手にしながら、一人呟いていた。

ふと我に返って再び星空を見上げた。やや天空に移動したオリオンの輝きがいつそう眩しかった。

*ちなみにこの真鯛はオール九州の2位に輝きました。



先輩から

この春に退職された方々からの便りです。ありがとうございます。

お世話になりました 白井 宏

現在、父の介護と身辺整理で結構忙しい日々を送っています。諸々の事情で、色々自退とはいきませんが、再就職運動も併行して頑張っております。事務長会の益々の発展を祈念いたします。

立つ鳥 跡を濁す 北川 正明

事務長会の皆様には大変お世話になりました。現在県立総合体育館の嘱託として、あっという間に半年が過ぎました。事務長の皆様はますます御活躍と三徳門至くしに御賞讃されるよう祈っております。

薬より養生 里崎 勇

三ヶ月程の入院開成。現在自宅療養中の身には、残暑が今更には堪えられません。毎日、コントロールするのが厄介な数値との闘いです。病院のありがたさがよくわかります。

お世話になりました 丹野 義之

四月から県教育センターへ事務嘱託として、勤務しております。休日には家庭園芸(主に草取り)や近郊の山歩きを楽しんでいます。これから、旅行や英会話等やってみようという気持が湧いてきます。退屈することはありません。

退職その後 長下 洋平

在職中は大変お世話になりました。たび重なる肺炎のため呼吸不全となり、現在、自宅にて機能回復に取り組んでおります。酸素吸入器の管の届く範囲の中で一日の長さをおし計つての毎日です。(佐世保市皆瀬町四八一七)

四ヶ月を振り返って 萩原 清成

学校を退職してあっという間に四ヶ月が過ぎてしまいました。四ヶ月前の学校事務に携わっていましたが、今になって学校の良さが感じられます。生徒が居て活気があって出来れば今一度と想う今日この頃です。

お世話になりました 森田 洋一

退職後、四月より「長崎県教育委員会」の嘱託として働いております。任職いっばいがんばりたいと思っております。町でお会いしたら、声をかけて下さい。(長崎市かき道二丁目二六一九)

訓練 山口 武久

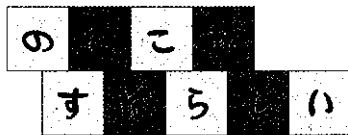
起床は五時半が多く、一時間の体力維持歩行訓練で汗を流す。新聞読み情報等右脳訓練後、草刈等上肢作業訓練。午後は四時間の左脳訓練後、草刈等力自標準訓練。夜は内職訓練が基本の日々です。

非常に明るい特異な施設です。

教育面において創立103年を数える全日制は普通科進学校として、文武両道を校是とし、日々鍛錬に努める一方、公立校では県内唯一の衛生看護科(全県区)と普通科スポーツ・コース(全国区)を擁し全国に有為な人材を輩出すべく研鑽に努めています。城内の太鼓橋の左右にある「あこう」の大木は、葉が常に天に向かって繁茂することから、将来に向かって力強く活躍することを祈って植えられています。そこで「21世紀へ向けての五島高校教育改革ビジョン」を「あこうビジョン」と名付け、新しい伝統の創造と次代を担う人材の育成に向け、職員一体となって日々努力しています。その職員の姿には唯唯「敬服」の一言に尽きます。

定時制は離島唯一の定時制で創立54周年を迎え、卒業生総数1,267名を輩出しています。平成8年より鳴滝高等学校通信制との定通併修により単位認定を行い、3年間で卒業できるように時代のニーズに応じた教育が行われています。また、出席率が年平均95%以上であり、これも職員の常日頃の努力の賜と思っています。

ウチ



わが校自慢

五島高等学校 朝 日 勝 己

本校は五島灘の最大の島、福江島にあり全国的にも希な城跡に建つ学舎です。玉石垣で囲まれた城門を潜り、古色蒼然とした内堀を石垣に沿って進むと第二の城門である正門が出現し、古城の跡に建つ近代的な校舎という不思議な空間があります。校舎は景観に配慮しながらも近代的な城をイメージした斬新なデザインで造られ、校舎中央には外観が天守閣を思わせる300名収容のメモリアルホール及びその下にはプラザという円形のステージとそれを取り巻く夜間照明付きの池があります。また全日制普通科の普通教室はすべて五角形でガラス張りの多い

随想



言葉は武器にもなり、墓穴も掘る

諫早市立諫早図書館長 平田徳男

上に立つ人にとって、言葉は武器です。と同時に、己に向かう武器にもなります。それを、二つの歴史小説から御紹介します。【】内は筆者

一、宮城谷昌光『晏子』から

【『晏子』は数ある宮城谷作品の中でも、人の織りなす綾の美しい歴史小説です。主人公晏嬰は中国春秋時代の齊の政治家で、身長は約140センチという小兵でしたが、その名は天下にとどろいた名宰相です。彼が楚の靈王に使いした時のことです。

靈王はからかおうとして門を開けず、側門からはいれと言う。晏嬰は門扉を震わすような大声でこう答えます。】

「狗の国の使者としてきた者は、狗の門からはいる。このたびわたしは楚の国に使者としてきたのです。この門からはいることはできません。」

【これに返す言葉を持たなかった靈王、】

「どうしてお前のような者が使者になったのか」

【と二の矢を放つ。晏嬰はこう答えます。】

「齊には、使者を命ずるとき、きまりがあります。賢者は賢君に使いをさせ、不肖の者は不肖の君に遣いをさせることになっております。わたしは不肖の

者ですので、楚に使いをするのは当然のことです」

【この機知にも完敗の靈王です。】

二、司馬遼太郎『酔って候』から

【明治維新直前の慶応3年、いわゆる小御所会議がはじまりました。

酔って遅参した土佐藩主山内容堂は、大政奉還をした徳川慶喜がこの場にいないのは解せぬと、大久保利通や岩倉具視を難じているうちに、こう言ってしまいます。】

「何事であるか、二三の公卿が」

「幼沖の天子を擁し奉りて、政權を擅にせんとは——」

とまでいったとき、岩倉具視は半腰になって容堂を指さし、

「大不敬であるぞ」

と、大喝した。

「幼沖の天子とは何事であるか。聖上【明治天皇】は不世出の栄主にましまし、こんにちの拳はことごとく宸断より出ましたることであるぞ。土州【容堂】、土州、いまの言は何事ぞや」

「土州、返答せよ」

と、詰め寄ったときには、ついに容堂もがくりと首を垂れた。

(負けた)

とおもった。たしかに大失言である。天子をつかまえて小僧なりと言い、小僧をだましてうんぬん、というにひとしい発言だった。

胸のすくような機知の晏嬰。公議政体論を酔った上での大失言で自爆させた山内容堂。言葉の力の何と大きいこと。失言の何と恐ろしいこと。歴史小説のなんと面白いこと。

編集後記



先ごろ、落語の春風亭昇太「師匠」と講談の神田北陽(現・山陽)「先生」とが揃って長崎入りした折、ゆかりの者で御兩人を囲むことになった。その晩、長崎市内のある店の二階に集まったのは、師匠方を入れて10人ほどである。他の客から隔てられた小部屋ゆえの気楽さか、御兩人とも袂腕いでくつろいだ心持ちと見える。もちろん、のっけから気が置けない和やかな席になったのは言うまでもない。高座だとなかなか聴かせてもらえない芸談や、テレビでお馴染みの〇〇師匠や△△師匠にまつわる珍談などが、左右の耳に矢継ぎ早に飛び込んでくる。まこと、芸人さんの世界はおもしろい。

合間に私は師匠方に尋ねた。「真打ちのことを落語の方では『師匠』、講談の方では『先生』とそれぞれ異なって呼ぶようですが、どうしてでしょう」

すかさず北陽先生が答えた。「それはね、噺家さんより

も講談師の方が偉いからなんです。ねえ、昇太兄さん。昇太師匠はニヤニヤ笑っているばかりだ。実は互いに居候をし合うくらい、二人は普段から仲が良いのである。でも、なぜ講談師だけが先生なのか。

翌日、寄席講談本を調べてわかったのだが、つまりはこういうことのようなのだ。

もともと講談には忠孝、滅私奉公、勧善懲悪といった、いわゆる倫理道徳を人々に説いて聞かせるという役目があったらしい。いわば人々を教え諭すというわけで、だから「先生」と呼ばれるようになったのだそうだ。なるほど北陽先生はエライ。

さて、学校勤めの身ゆえに私も「先生」と呼ばれることが多い。では、この私にそう呼ばれるに値するほどのものが備わっているのか。大いに疑わしい。北陽先生に教えを請ねねばならない。

「ばってん14号」をお届けします。今号には諫早図書館の平田徳男館長さんから玉稿を頂戴いたしました。「事務長会の頼みとあらば」と、特にお書きくださったものです。ありがとうございます。

会員の皆さん、投稿や提案をお待ちしています。(に)